



## ～復興道路・復興支援道路初の開通から3ヶ月後～

東北横断自動車道釜石秋田線

宮守 IC～江刺田瀬 IC～東和 IC

復興を支え、信頼性の高いルートとして定着しつつあります

東日本大震災で被災した沿岸地域の一日でも早い復興を支援するとともに、沿岸と内陸の交流をより促進するものとして、復興支援道路の整備を進めています。

去る平成24年11月25日に、東北横断自動車道釜石秋田線 宮守 IC～東和 IC 間（延長約24km）が復興道路・復興支援道路として初めて開通し、3ヶ月経過した後の利用状況を取りまとめたので結果をお知らせします。

■ 震災復興を支える様々な事業者が利用（別紙）

■ 物流や救急救命における交通の安全性・信頼性向上に寄与（別紙）

※ 宮守 IC～江刺田瀬 IC 交通量の推移

<開通直後 (11/28)> 6,000 台/日

<開通1ヶ月後 (12/25)> 6,470 台/日

<開通3ヶ月後 (2/25)> 6,890 台/日

<発表記者会:岩手県政記者クラブ>

### 【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局

岩手河川国道事務所 電話019-624-3131(代表)

副所長(道路) くま がい しげ のり  
熊谷 茂則 (内線205)

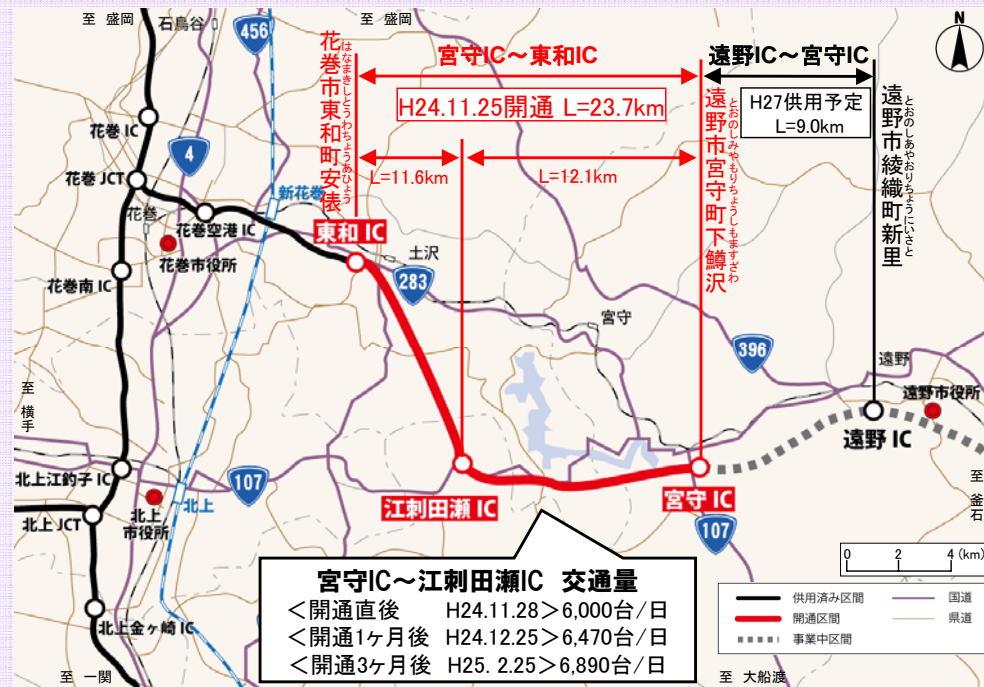
調査第二課長 かく だて きよ のり  
角 舘 清典 (内線451)

# 【開通3ヶ月後】東北横断自動車道釜石秋田線

## みやもり とうわ 宮守IC～東和ICが開通して

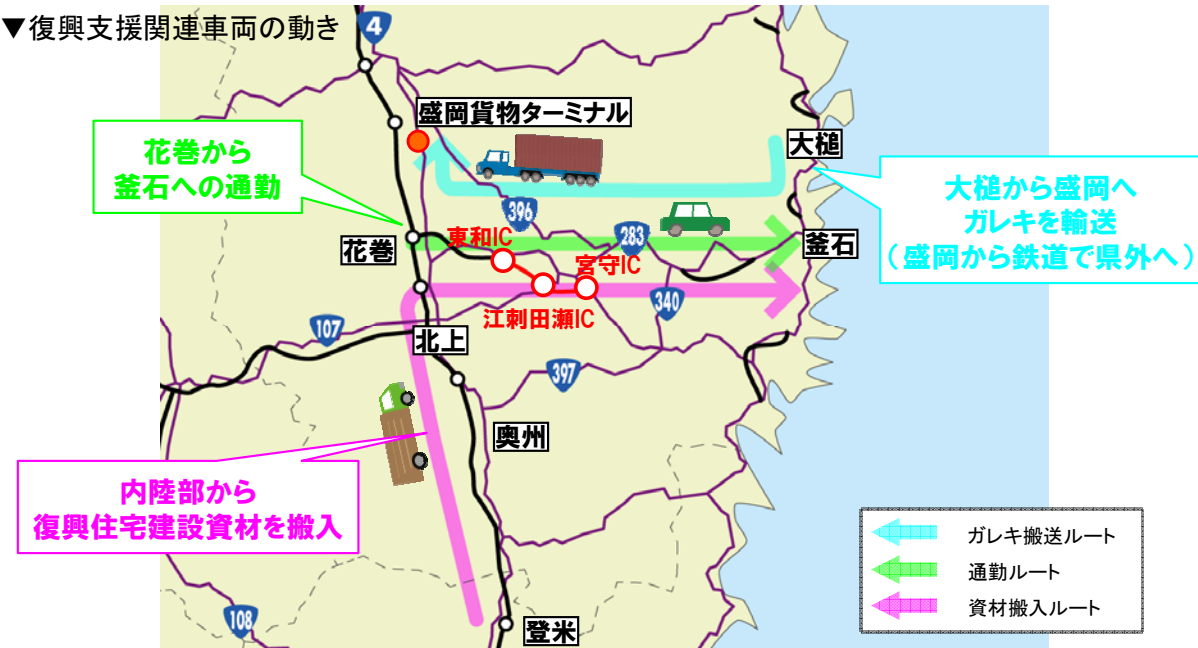
(平成24年11月25日開通)

- ①復興を支える様々な事業者が利用
- ②信頼性の高い物流ルートとして機能
- ③遠野市からの救急搬送を支援
- ④妊婦さんの通院負担を軽減



### ①復興を支える様々な事業者が利用

▼復興支援関連車両の動き



### 開通3ヶ月後の東北横断自動車道釜石秋田線

釜石市方面へ向かう車両



#### 《ガレキ運搬事業者の声》

- ◆大槌町の震災ガレキを、盛岡貨物ターミナルへ運んでいます。20フィートコンテナ8台が1日に2往復しています。
- ◆これまでは国道396号を輸送ルートとしていましたが、冬期は天候や路面状況を考慮し、安全性確保のため開通区間を利用して、盛岡まで輸送しています。

#### 《復興住宅建設業者の声》

- ◆岩手県・宮城県の内陸部から建設資材を搬入しています。資材の到着の遅れは工事の進捗に影響するため、横断道及び東北縦貫道を利用しています。
- ◆現場作業員のうち1/3は花巻方面からの通勤者です。開通により冬期の通勤は安心感が大きいと感じています。

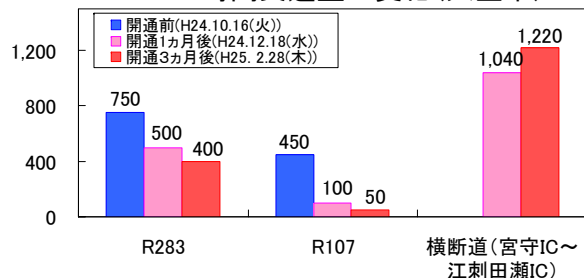
## ②内陸と沿岸を結ぶ信頼性の高い物流ルートとして機能

- ・物流拠点間を結ぶ安定したルートとして、地域の産業を支援
- ・冬期は、安全性や定時性を重視する物流トラックなどで利用が増加

▼交通量調査断面位置図 ▼横断道を利用する大型車



(台/12時間) ▼12時間交通量の変化(大型車)



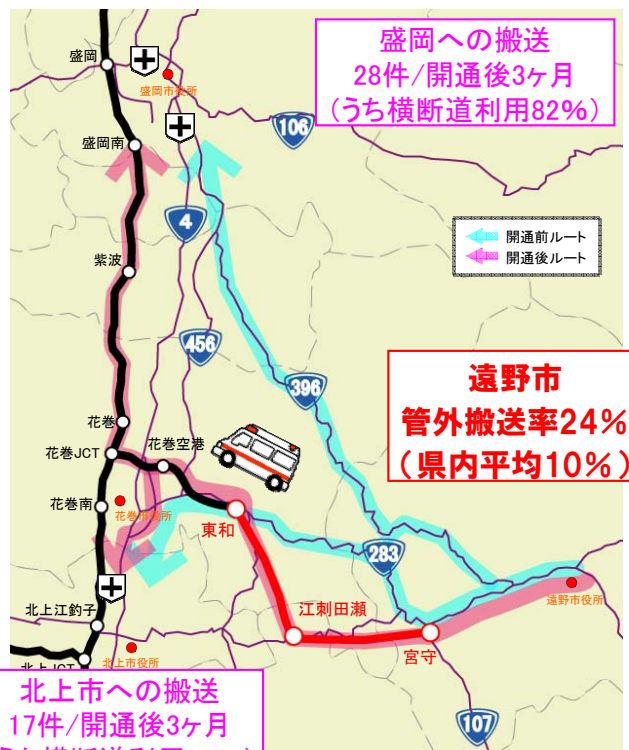
### 《製造業者・物流業者の声》

- ◆釜石市から北上市や金ヶ崎の産業集積地へ、一月に約300台以上の大型トレーラーで製品を運搬しています。
- ◆指定納品時間の厳守のため、開通前の冬期は通常期の30分前に工場を出発していましたが、開通後は時間が読めるようになり、通常期と同じ時間の出発が可能となりました。

## ③管外搬送の多い遠野市からの救急搬送を支援

- ・遠野市から盛岡市、北上市の搬送は、安定した搬送ができる横断道ルートに変更

▼遠野地区からの管外搬送ルート



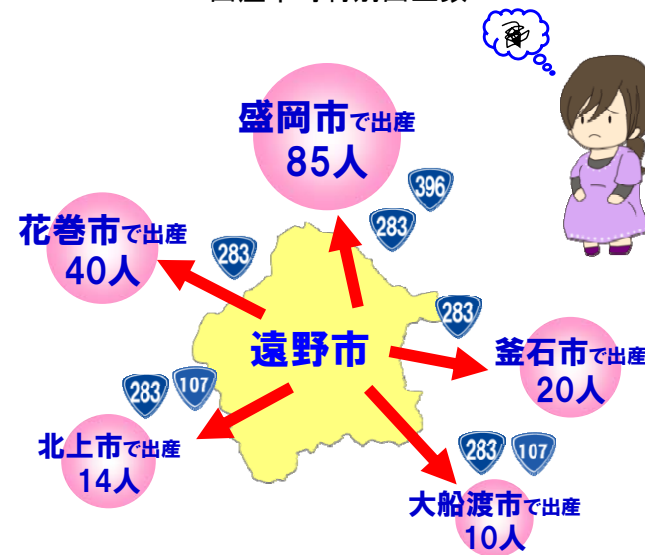
### 《遠野消防署の声》

- ◆高速道路の走行により、心電図の誤差が小さくなり適切な処置が行えるようになりました。
- ◆高速道路はカーブが少ないため、心肺停止となった場合、隊員が立った状態で「胸骨圧迫処置」が安定して行えるようになりました。

## ④お産施設が無い遠野市の妊婦さんの通院負担を軽減

- ・遠野市にはお産施設が無いいため市外の病院で出産せざるを得ず、峠越えの移動は心身の負担に
- ・開通後は横断道で病院に行くことが出来るようになり、妊婦さんの負担が軽減

▼遠野市在住妊婦の1年間あたりの出産市町村別出生数



※1年あたりのお産施設  
所在市町村別出生数(データ:H20年度~H23年度)  
【資料】遠野市助産院ヒアリング

### 《遠野市助産院の声》

- ◆お腹をかばいながら車を運転して、盛岡市・花巻市・北上市の病院に通っている妊婦さんは、通院がとても楽になりました。